

⑤アッシャーマン症候群

アッシャーマン症候群とは不妊症の一因(着床因子)で、子宮が原因で無月経や不妊症になってしまう病気です。

原因

流産や人工妊娠中絶の際に乱暴な操作が行われた結果、子宮内膜が傷つき、それが原因となって子宮内壁が癒着してしまいます。

症状

一般的には過少月経、過短月経、無月経を認めます。つまり月経量が著しく低下します。子宮内膜が正常に成長できないために、着床できずに不妊となります。

診断

子宮鏡にて癒着の程度を確認します。

治療

全身麻酔下に子宮鏡下において癒着した部分を剥離する操作が行われます。その後子宮腔内にIUDもしくはバルーンカテーテルを使用して再び癒着することを防止して、さらにエストロゲンの処方を行って治療します。

予防

流産手術後にアッシャーマン症候群をおこさないように、適切に手術を行い術後にしっかりと抗生剤を使用する事が大切です。

また流産手術のもう一つの問題は、手術後に内膜が薄くなる事です。つまり流産手術を繰り返していると子宮内膜がなかなか厚くならない事が起きてきます。

手術の際は吸引(吸引装置)を利用して、強引に内膜をガリガリと剥がさない事が大切と言えます。今後の妊娠を考えると、少し組織を残す位の気持ちで手術をする方が子宮内膜にとっては好ましいと言えます。